

下田市「散歩したくなる商店街のデザインの提案」

静岡文化芸術大学 大学院 デザイン研究科 磯村克郎研究室

静岡文化芸術大学 大学院 デザイン研究科 寒竹伸一研究室

指導教員： 磯村克郎、寒竹伸一

参加学生： 王順安、賈紫琴、木村春香、佐藤里菜

1. 要約

下田市は人口約2万人の伊豆半島南部東側に位置する都市である。1854年に日米和親条約の締結の際、函館と共に開港され、ペリー提督艦隊が入港したことで知られている。本研究では、昨年度の基本構想案をもとに下田市の中心市街地活性化につながるモデル事業の提案を3案行った。

2. 研究の目的

下田市は現在、中心市街地の衰退とともに中心部の観光客数の減少も問題となっており、町の活気が失われている。そこで、下田市役所と下田市商店会連盟と本学デザイン研究室が連携し中心市街地にある商店街やその周辺に焦点を当てたモデル事業の提案を行い、中心市街地の活性化に寄与することを目的とする。

3. 研究の内容

昨年度作成した下田市基礎調査及び基本構想案を基にモデル事業案を作成する。下田市長へのプレゼンテーションを行い今年度の実施事業を選定する。実施に向けてデザインの修正・詳細化を行う。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
現地調査・下田市との打ち合わせ		●市長プレゼン		地元合意	●補正予算 ●現地調査	●モデル事業着工		●コンソーシアム	モデル事業完成	
				延期	整備工事延期					
大学研究室での活動										
	モデル事業検討									
		構想案修正					基本デザイン検討			

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

- ①昨年度作成した基本構想案を基に、モデル事業の検討を行い提案する。
- ②提案した3案の中から下田市が1案を選定し、今年度の補正予算で実際に事業を行う。

(2) 実際の内容

①モデル事業の検討と提案は当初の予定の通り行うことができ、②下田市が最初の整備案1案を選定することはできた。しかし、下田市長から地元の人からの合意を得て行いたいという指示があったので、市民との打ち合わせなどで合意形成を行い来年度の予算で事業を行うことになった。

(3) 実績・成果と課題

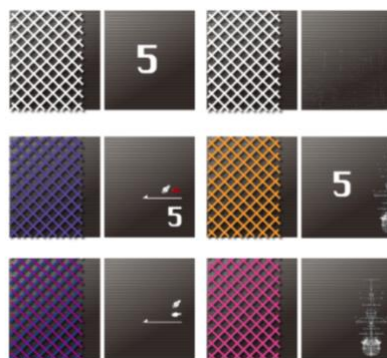
2018年度基本構想案と2019年度の調査に基づき「令和の黒船都市」をデザインコンセプトとしたA. 細分化された商店街への統一的なイメージの定着、B. 大川端通りから商店街を横切る動線上のまちかど整備、C. まちなか周遊と海水浴等観光動線との両立化に関わるモデル整備の3案を検討した。



A. まちのビジュアルポイント

商店街からは、18の商店街の統一的なイメージやフラッグを求められているが、現状では、商店街ごとに異なったデザインの照明灯、下田マイマイ通り以外の電柱や電線、閉じたシャッターなど統一的な景観の阻害要因が多い。下田においては、黒船由来の黒色のカラーリングは統一的でイメージ転換可能な色彩であり、コンビニ店などでも実施されている。電柱は黒い色彩によりマストの造形物に見え、シャッターには地域の情報やナマコ壁のイメージを付加することができる。

モデル整備では、B案2地点のまちのコミュニケーションポイントに隣接して、閉じたシャッターや電柱が多い三丁目商店会を整備範囲とする。



B. まちのコミュニケーションポイント

下田のまちなかは、歴史的な格子状の街路網が残されており、基本構想では大川端通りから複数の商店街の横断を誘導する動線となっている。街路網の交点となるまちかどに着目し、地域での外来者とのコミュニケーションや商店街への誘導のポイントとなる整備を行う。まちかどの身近な空間に地元の高齢者などが滞留できるベンチや植栽を設え、自動車の速度制御が可能な舗装整備を行う。

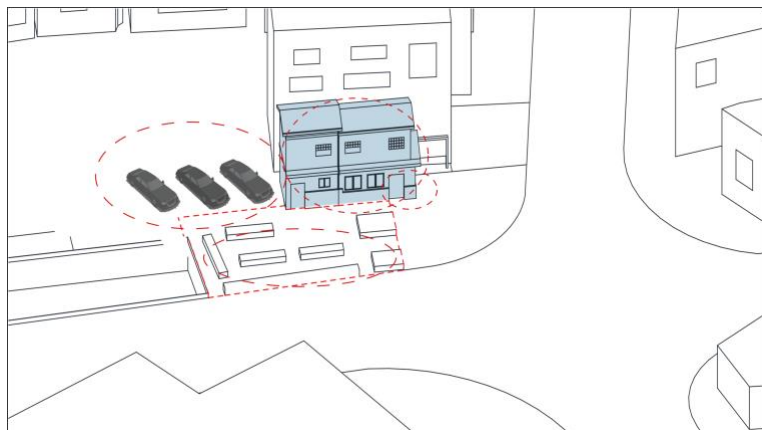
モデル整備では、街路網の中でも特徴的な2地点の下田カギ辻となった交差点を対象とし、消防分団の施設や商店と連携してまちかど空間やストリートファニチャーの整備を行う。

イメージ図



C. まちのモビリティポイント

観光客の海水浴への単一目的の動線がまちなかを迂回していく現状に対し、多様な移動手段に乗り換えられる拠点を整備して、まちなかを周遊する行動と海水浴などが両立できるように転換していく必要がある。現状では、駐車場、レンタサイクル、観光案内施設が単一機能として設置されているが、乗り換え地点として融合する整備を行う。モデル整備では、3地点の観光案内所と商店会駐車場をモビリティの結節点と捉え、レンタサイクル施設、情報案内板、植栽や施設リノベーションによって一体化した環境とする整備を行う。



(4) 改善点

C 案の観光案内所について観光客の行動の出発点であると共に、駅から出てすぐということもあり街の印象を決める場所にあるため、色彩や造形に配慮しなければならない。現在、3種の検討案を作成している。



5. 地域への提言

モデル事業を提案するにあたり下田市の観光客数の推移や周辺の海水浴場への観光客数の比較を行った。そこから、下田市に観光に来るほとんどの人が海水浴場に流れており中心市街地に来ていないことがわかった。つまり、海水浴場目的の観光客を中心市街地に誘導させるような事業を行うことで中心市街地の活性化の糸口があるのではないかと考えられた。また、なまこ壁やカギ辻など歴史的な景観や空間が多くあるので、それを活用したデザインを行うことで街中のまちづくりを行いたい。

6. 地域からの評価

〔下田市役所からの評価〕

- ・下田市長に昨年度の基本構想をプレゼンテーションし、合意をいただいた。
- ・モデル事業はC案の中の観光案内所のリノベーションを最初に行うことになった。
- ・モデル事業を行うにあたり、地元の人からの合意形成を行うよう指示された。

〔下田市観光案内所の評価〕

- ・観光案内所の人との話し合いでは、ぜひとも改善してほしいとお願いいただいた。
- ・入口に大量の掲示物が貼ってあり入りにくい印象が強いので、オープンな観光案内所にしたい。
- ・今回の提案は外観の計画のみだったが、内部の改善もしてほしい。